



2009～2010年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーの未来はあなたの手の中に
2009～2010年度
RI会長 ジョン・ケニー

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)11月10日
会長：増田 盛英
幹事：高木 勝
クラブ委員長：岩崎 道夫
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1429回例会

～新世代のための月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2009年9月24日(木) 晴 第12回

司会：梅田朋嗣会場委員
斉唱：「日も風も星も」

会長挨拶

増田盛英会長

食欲の秋です。今日は皆さんが日頃召し上がっているお米の「コシヒカリ」のお話をします。

まずはこの曲をお聞き下さい。今の曲は私の母校、東京農業大学の農大名物「大根踊り」の2番です。歌詞の最後の方で「金波・銀波の打つさまは、そりゃおどりゃんせおどりゃんせ」とあります。今の時期の田んぼは、まさに風に吹かれ金波・銀波が踊っております。私はその金波・銀波が踊っているのを見ると、なんとなく安心し、ほっとした気持ちになります。稲は私たちにとって大変ありがたい植物です。毎年毎年連作しても、よほど天候不順でない限り必ず収穫が約束されています。

稲はもともと自然に生えていました。最初は、水辺に生えている野生の稲を集め食べていたとの事です。野生の稲が変化して栽培できる現在の稲になったのであります。米は日本に、中国大陸から朝鮮半島を経て伝わってきたと言われております。日本の中で一番古い田んぼは、縄文時代つまり2500年位前のものが発見されています。そしてこの時期に「水田での米作り」の技術が伝わり、田んぼで稲を作り始めたことが、縄文時代を終わらせ弥生時代に変わるきっかけになったと言われております。

米作りが始まる前の日本の人口は20万人くらいだったのが、奈良時代には約600万人、江戸時代の後半には約3,000万人になり、現在は1億2,000万人以上に増えました。日本列島でこれだけの人口を養ってこれたのは、稲がほかの作物に比べて日本の気候に合っておりたくさん収穫できたからなのです。お米は、昼間は暑く日が照り、日照時間が長く、夜は真夏でも25度以下に冷え込む地域に美味しいお米ができます。酒米も同じです。今年は梅雨が長引き収穫が心配されます。

前置きが長くなりましたが「コシヒカリ」の話をします。私の会社の新潟営業所は現在7名の従業員がおりますが、全員が2町から5町ほどの田んぼを持っている農家で「コシヒカリ」を作っております。田植えの時期の5月の連休の頃と、収穫の9月中旬過ぎには殆どの従業員が有給休暇をとり農業に専任するため、会社が空っぽになることもあり、交代で勤務しております。「コシヒカリ」の育成経過は、昭和19年新潟県農事試験場の高橋浩之さんにより「農林22号」と「農林号」との交配で行われました。「コシヒカリ」の名は、福井県側から、新潟県側に命名の依頼が行われ、新潟県は両県がかつて含まれていた「越国」(こしのくに)に因み、「越の国に光輝く米」という願いを込めて「コシヒカリ」と命名されました。カタカナ表示が正式です。そして昭和31年に農林100号【コシヒカリ】として命名登録されています。



今では全国各地で栽培されておりますが、昭和54年からは、全国での作付け面積1位を続け、平成17年には作付け比率が38%になりました。コシヒカリは大変おいしいお米です。米の粘りが強く、食味に優れる品種ですが、栽培上は背丈が高いため倒伏しやすい、いもち病などに弱いという欠点を持っていますから、農家では大変苦勞して栽培しております。また、コシヒカリと掛け合わせることで、新たな品種の米も出来ております。代表的な品種として、秋田県の「あきたこまち」、九州の「ひのひかり」、宮城県の「ひとめぼれ」などがあります。

今日は食欲の秋ということで「コシヒカリ」の話をしましたが、おかずに甘みがあり食べることができます。しかし、いくらおいしいと言っても、食べ過ぎて私や堀国際委員長のようにデブにならないようにしてください。

幹事報告

高木 勝幹事

- ・本日13時35分から9階「つるの間」において職業奉仕委員会主催のクラブフォーラムのための打合せを開催致します。
- ・次週10月1日(木)はガバナー補佐訪問です。
- ・同じく次週10月1日(木)13時40分より9階「ことぶきの間」にてガバナー補佐とのクラブ協議会及び第4回理事会を開催致します。少々時間の延長があるかもしれませんのでご了承ください。

出席報告

松岡道弘出席委員長

会員70名 出席49名 (出席計算人数53名)

出席率 79%

9月17日は補填により 89.7%

ニコボックス

松岡道弘ニコボックス委員長

- ・長らく欠席致しました。30周年記念委員会の皆さんには迷惑をおかけしました。 **本多 清治さん**
- ・今夜歴代幹事の皆様、還暦の会お世話になります。よろしくお祈り致します。 **岡村 達人さん 稲葉 徹さん**
- ・鈴木淑久さん、社長就任おめでとうございます。若社長として益々がんばって下さい。又、田口さんと市岡さん今日卓話楽しみにしております。 **増田 盛英さん**
- ・決して若手会員とは言えませんが、今日の卓話、宜しくお祈りします。 **市岡 正蔵さん**
- ・梅村さんお世話に成ります。 **渡辺喜代彦さん**
- ・1) 敬老の日には素敵なお祝いを頂き有難うございました。
2) 本多さんお元気になられてよかったですね。又一緒にゴルフをやります。 **野崎 洋二さん**
- ・敬老の日のお祝いありがとうございました。 **守谷 巖樹さん 岩本 成郎さん 江口 金満さん 山田 鎮浩さん 森 恒夫さん 鈴木 圓三さん**
- ・誕生日のお祝い物有難うございました。 **布目 徳さん**
- ・妻の誕生日にお花をありがとうございました。 **高木 勝さん**

ポール・ハリス・フェロー認証状伝達



ポール・ハリス・フェローになられた堀慎治さんに、増田会長より認証状が授与されました。

井上浩子事務局員挨拶



ピアノのアルバイトから始めて23年ほどになります。その間、私は決して優秀な事務局員ではありませんでしたが、皆さんの温かいご指導で、とても幸せな毎日をご過ごすことができました。今日の夜も大変盛大な送別会を開いていただけたとのことで、重ねてお礼申し上げます。今後は兵庫県姫路の方へ帰り、そこで生活することになります。こちらで教えていただいたことを力にしてまた頑張っていきたいと思っております。本当に長い間、ありがとうございました。

※ポール・ハリス・フェロー認証状伝達と、井上浩子事務局員挨拶は、9月17日(木)の例会で行われたものです。

井上浩子事務局員送別会

9月17日(木)18時より、10年間(ピアノ演奏を含めると23年間)、名古屋瑞穂RCの発展のため、多大な貢献をされた井上浩子事務局員の労をねぎらい、送別会が「ローズコートホテル」にて行われました。終盤には、サプライズで胴上げが行われました。



卓話

(アドバイザー) 田口 豊さん
(在籍5年未満会員) 市岡正蔵さん

若手会員からのメッセージ



皆さんこんにちは。在籍5年未満会員の市岡です。私の推薦者は、松波恒彦さんと西本哲さんです。選考委員会を経て、2006年9月に入会させていただき、今月でちょうど3年が経ちました。3年もの長い間なんとか続けてこられたのは、推薦者をはじめ、皆様の温かいご支援ご指導のおかげだと思っています。心より感謝申し上げます。

1) ロータリー入会前と入会後で変わったこと。

私にとって、ロータリーという言葉の響きは、すごいところすごいメンバーがそろって、毎週「何かの奉仕をしている」そんなイメージでした。私みたいな者が、そんなすごい人たちと一緒にやっていけるだろうか？そんな気持ちが先行してすぐには入会する気持ちにはなれませんでした。その時松波さんに「何事も声がかかっている時が華だよ、実は自分もそうだった。」と言われ、その言葉でやっと入会しました。

私には入会した以上推薦して頂いた松波さんに迷惑をかけてはいけない、という強い思いがあり「一年間100%出席」してみようと思えました。片山主水ガバナー補佐の卓話で、「推薦者に迷惑をかけない」という「私の思い」が決定づけられました。卓話では、ロータリアンは「会の出席

と行事に参加する事が、何物にも優先する」つまりこの行動は、ロータリーの綱領よりも優先するという話をされていました。入会3度目の例会で、この卓話を聞くことができたことは私にとって大きな支えとなりました。結果「一年間100%出席すること」は達成することができました。

今回の卓話にあたり、初めて名古屋瑞穂RCのホームページを検索してみました。最初のページに綱領(目的)が4項目と四つのテストが書いてあります。一度読んだくらいでは難しい言葉の羅列で、私には良くわかりません。ただ1つわかったのは、ロータリーとは「世界最初の奉仕クラブ組織」だったということです。ホームページを見るまでまったく知りませんでした。

入会三年目にして今回の卓話の話をいただき、改めてロータリーとは何か？を勉強させて頂きました。こういう機会を与えられて初めて、勉強し自分が変わっていくのではないのでしょうか。先輩方から見ればたわいのないことかもしれませんが、この事が今回テーマの「ロータリー入会前と入会後で変わったこと」ではないかと思っています。

2) ロータリー入会后、2~3年経った今、疑問点は？

メイクアップ制度について少し疑問に思っていることがあります。そもそも「知り合いを広め、高い道德水準にある奉仕の心を持って、職業奉仕をしよう」を目的としているならば、あんな簡単な、会話の無いメイクアップはあり得ないと思います。私は、このメイクアップ制度を否定しているわけではありませんが先輩の見解をお願いします。

3) 質問

ホームクラブに100%出席された年度はありますか？また出席することに対してどのような考えがありますか？最初から出席率を意識していましたか？メイクアップ制度についてどう思われますか？田口アドバイザーの考えをお聞かせ下さい。

そして今日の卓話をきっかけとして、これからは、出席することだけでなく、幸せになるために、もう一度進んでロータリアンの本当の目的「奉仕を機会として、知り合いを広めること」をいつも原点において、例会に参加していきます。諸先輩方にはこれからも今まで通りご指導賜りますようお願い申し上げます。



私は入会15年が終わろうとしているところで、質問の中の1つ「ホームクラブ100%出席」についてですが、昨年度にはじめて達成しました。2つ目の質問のメイクアップの見解についてですが、私が入会した頃はメイクアップを行っているRCの一覧表もなく、知りたい時は事務局に電話をして聞いていました。今のメイクアップとはニュアンスが違い、サインのメイクアップを推奨している雰囲気はありませんでした。現在のようにサインだけして帰って行くようなメイクアップは、本来の目的からすればいかなるものかという質問については、その通りだと思います。まずはホームクラブの100%出席が前提であります。その中でどうしても仕事の都合や他の理由で出席できない時に限って、当時は前後各1週間の間にメイクアップをしなければいけません。そして、本来の目的であるホームクラブ全出席を救済しようというのがこのメイクアップ制度であったかと思っています。たまたま今は簡易的にサインだけで帰ってもいいことになっています。さらに、月間を通してのメイクアップの曜日、場所まで出ていますが、現会長の「原点を見つめ直そう」という会長方針からすると、逆にいかなるものかと思っています。メイクアップとはどうしてもホームクラブに出席できない時に限って、他のクラブへ行って60%(36分間)以上出席というのが許されています。

今週行事

10月1日(木)

ガバナー補佐訪問

次週卓話

10月8日(木)

卓話講師：地区米山奨学委員長 竹内一郎さん
テ - マ：米山奨学会の現況と地区委員会の役割

次々週卓話

10月15日(木)

会員卓話：岩田修司さん
テ - マ：職業奉仕についてクラブフォーラム